

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)
／西川 和孝

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教科専門・教科教育・教職専門等を基礎とし、さらに教育実践力を身に付けた教員養成を目指すため、以下の授業を行う。

- 1) 授業内容は、高い教職の専門性を含み、教育実践力を育成し、教員採用試験(過去問等)を意識した内容とする。また、学生とのコミュニケーションによって、豊かな人間性の育成を目指す。
- 2) 授業方法は、学部1年生から担当する授業科目等を通して教職への動機付けを行う。特に、実験・実習科目は安全に気を付けて行う。
- 3) 成績評価は、学生の能力や努力を正當に評価するため、シラバスに添った成績評価(出席状況、授業態度、レポート、テスト等)を実施し、第三者にも説明できるような評価を行う。

2. 点検・評価

教科専門・教科教育・教職専門等を基礎とし、さらに教育実践力を身に付けた教員養成を目指すため、以下の授業を行った。

- 1) 授業内容は、高い教職の専門性を含み、教育実践力を育成し、教員採用試験(過去問等)を意識した内容として実施した。また、学生とのコミュニケーションによって、豊かな人間性の育成を目指した教育研究活動を行った。
- 2) 授業方法は、学部1年生から担当する授業科目等を通して教職への動機付けを行った。特に、実験・実習科目は安全に気を付けて行った。
- 3) 成績評価は、学生の能力や努力を正當に評価するため、シラバスに添った成績評価(出席状況、授業態度、レポート、テスト等)を実施し、第三者にも説明できるような評価を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 1) 「自立と共生」という基本概念と「実践的・体験的授業」という教育の基本方針を堅持し、学生の指導にあたる。
- 2) 卒論、修論のテーマや指導に当たっては、学生の希望を優先する。
- 3) 担当する講義、実験科目等の授業評価を実施する。
- 4) 実験、実習科目は安全が最も重要であるため、事故のないよう十分留意する。

2. 点検・評価

- 1) 「自立と共生」という基本概念と「実践的・体験的授業」という教育の基本方針を堅持し、学生の指導した。
- 2) 卒論、修論のテーマや指導に当たっては、学生の希望を優先して指導した。
- 3) 担当する講義、実験科目等の授業評価を実施した。
- 4) 実験、実習科目は安全が最も重要であるため、事故のないよう十分留意して実施した。
- 5) クラス担当教員として3年の合宿研修において集団面接指導等を実施した。

II - 2. 研究

1. 目標・計画

- 1) 基礎的な研究だけでなく、教育実践に役立つ研究を行う。
- 2) 民間や法人からの外部資金を獲得するため積極的に応募する。
- 3) 科学研究費補助金に申請を行う。
- 4) 学術論文(少なくとも1報)を投稿する。
- 5) 研究成果を学会にて発表する。

2. 点検・評価

- 1) 基礎的な研究だけでなく、教育実践に役立つ研究を行った。
- 2) 民間や法人からの外部資金を獲得するため積極的に応募した(日本学術振興会のRPDの受入の申請した→補欠)。
- 3) 科学研究費補助金に申請を行った。
- 4) 学術論文(1報)の準備をした(5月投稿予定)。
- 5) 研究成果を学会にて発表した(第63回日本家政学会にて研究発表した)。

II - 3. 大学運営

1. 目標・計画

- 1) 学内の各種委員会に出席し、職務を遂行する(大学院入試委員、学生支援委員、知的財産室会議委員会等)。加えて、病気等で休まれる先生の代理出席を積極的に行う。
- 2) コース会議、部会議を通じて問題点や提案をコース長、部長に行う。

2. 点検・評価

- 1) 学内の各種委員会に出席し、職務を遂行した(大学院入試委員、学生支援委員、知的財産室会議委員会等)。加えて、病気等で休まれる先生の代理出席を積極的に行った。
- 2) コース会議、部会議を通じて問題点や提案をコース長、部長に行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 1) 附属小学校教員、附属中学校教員と連携・協力する。
- 2) 研修会、学内ホームページの充実等にて、大学院への入学を呼びかける。
- 3) 外国人研究者、留学生の希望者があれば受け入れる。

2. 点検・評価

- 1) 附属小学校教員、附属中学校教員と連携・協力した。
- 2) 学内大学院説明会(3回参加)、他大学(神戸女子大学)への訪問、学内ホームページの充実等にて、大学院への入学を呼びかけた(コースで6人受験、6人入学)。
- 3) タイのシーナカリンウィロート大学からの外国人留学生を受け入れている。また、平成24年2月2日本学において、韓国慶南大学校師範大学と本学家庭科学生間の懇談会を実施した。特に、中等家庭科教育について意見交換を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

タイのシーナカリンウィロート大学からの外国人留学生を受け入れている。
平成23年10月8～9日、本学において日本家政学会中国・四国支部徳島大会を開催した。
平成23年度文部科学省教員資格認定試験の問題作成に関わった(第1次、第2次)。